

きょうと福祉倶楽部だより

2022年 10号



2024年の介護保険制度 「改悪」への道筋 —生命を守る介護を身近なものに



ゆたかな老後。 安全な老後。 自分らしく過ごせる老後。

これらは歳を重ねる多くの高齢者の願いではありませんか？
わたしたちきょうと福祉倶楽部のスタッフもその願いをみなさんと一緒に介護保険や障がい者福祉施策を最大限に活用して暮らしを守り続けたいと思ってます。

家族に頼った介護から「介護を社会化」するという名目で作られたはずの介護保険制度。その制度を壊していく流れが加速されています。

いまでさえ不十分な介護保険制度は介護心中、介護殺人⇒年間50件から70件
介護退職は年間9万～14万人

介護を受けられない介護難民や、介護で家計が破綻する悲劇も日常にみられます。
本来政治はこんな現状を打開するためにあります。

しかし、その願いは今の政治には届いていないようです。

たとえば低すぎる介護職員の賃金を改善させるため政府が打ち出した処遇改善補助金が作られました。しかしその補助金はあつという間に利用者の負担へと付け替えられました。

みなさんに配られる請求書をご覧ください。

10月分の請求書にあらたな項目があることにお気づきになるはずです。

「ベースアップ等支援加算」があらたに作られました。

これまで税でまかっていた処遇改善に要する費用を利用者負担にしたのです。

だからスタッフの待遇はこれまでと変わる事はありません。

改善にかかるお金を国がケチり利用者に転嫁しただけですから。

- 利用者自己負担の引き上げ
(原則2割負担化、2割・3割の負担者の対象拡大)
 - 要介護1、2のホームヘルパー、デイサービスの総合事業への移行。
つまり介護保険本体から外して市町村事業にする。
 - 「科学的介護」の名の下で「自立」促進。
 - ICT、ロボット活用で人員配置を減らす
- この内容をご覧になって何を感じますか？言い換えると

1. 利用者をもっと負担して下さい。
2. お金を支払えない人は介護を受ける事は遠慮して下さい。
3. 安上がりに介護現場を運営するために「自立」させサービスから卒業してもらいましょう。
4. 人減らしを待遇改善で改善するのではなくコンピュータネットワークやロボットに仕事をやらせて少ない人員で運営させましょう。
ということです。

このような改悪が利用者に知らせぬまま実現させようとする政府にわたしたちは強い憤りを感じます。

あきらめたらこういう改悪も通ってしまいます。
わたしたちはあきらめません。介護保障は人権です。

利用者みなさん、介護に携わる仲間たちなど多くの人と力を合わせ
この事実を伝え、改善を目指していきます。

